

◇韓国金星社出張の思い出

大槻伸次

日韓は近くて遠い国でなく、近くて近い国であるべきだろう。そこで再度、韓国企業との交流があった事の思い出を纏めてみた。(1991年(H3)12月9日出国～12月21日帰国)韓国金星社では、群馬製作所で開発した石油ファンヒーターのライセンス生産を行うことになり検査設備を受注した。そこで専用機Gで設計製造し、調整の為数人で金星社へ出張することになったのである。

前回の出張先だった金星機電社は仁川市(インチョン市・現在は仁川空港というハブ空港ができた)であったが、今回の出張先は釜山市(プサン市)近郊の昌原市(チャンオン市)にある金星社工場である。韓国昌原市へは、釜山市近郊にある金海空港(キムへ)が最短で、成田から約2時間程なので国内へ出張に行くのと大差ない距離である。金星社は韓国ではサムスンとトップを争うほどの大企業であるらしく、会社の中に郵便局、銀行などのあらゆる公共の施設が備わっている大きな建屋の工場だった。売店もすごく充実していて、帰国時、職場へのお土産を格安で買うことができたのはラッキーだった。休日は馬山市(マサン市)と古都慶州(キョンジュ)へ案内され、慶州では仏国寺(ムルクッサ)の石窟庵、多宝塔、釈迦塔、古墳公園、観星台、慶州歴史博物館など見て回った。慶州歴史博物館ではいろいろな書籍が売られていたが、その中に「韓日交流二千年」(A4判120頁・日本語版)というのがあったの興味を惹き購入した。内容は、韓国と日本の文化財を写真で対比させ、韓国にルーツがあると思わせるような編集がされていた。(韓国は中国と日本の中間にあり中国起源の文化が朝鮮に伝えられ、更に朝鮮通信使などにより日本に伝えられたのは自然な流れだったのあろう)また、ガイドを担当してくれた女性に案内された土産物店にて、妻にオパールネックレスを買った。お付き合いで買うことになったが、そこそこの品物だったらしく今でも使っているという。

わが社が納めた検査設備の調整は、国外という不慣れた環境でプレッシャーはあったものの、ほぼ順調に推移し特に問題となるようなことはなく納品できた。ところが、同時並行で進めていた金星社側で施設していた設備の関連で不安なことはあった。というのは、ファンヒーターのエイジングラインコンベアーだったか、電気工事中すごい電気ショートがあったにもかかわらず、彼らはその割に驚いた様子はなくこちらの方が驚いてしまった。また、製品(石油ファンヒーター)の化粧板の加工具合を見たが、裏側のバリが多いようで造り込みが雑なように感じた。帰国前日、韓国のスナックに招待を受けたので皆で繰り出したが、驚いたことに酒類が出る前に果物と180cc入りの牛乳パックが出されそれを先に食べ飲むのだという。しかし、考えてみれば焼酎など飲む前に牛乳を飲むというのは胃壁保護になり理にかなっているなと感心した。その夜、スナックを後にしたのは午後零時を回っていたが、街中は若者でごった返していた。そんな光景を見て、韓国の若さとパワーを強く感じながらホテルへ向かった。

その後、設備の微調整のため翌年同社へもう一度(1992年5月18日出国～5月23日帰国)出張した。■写真・「韓日交流二千年」という書籍。表紙写真は、日本の奈良広隆寺の弥勒菩薩半跏思惟像。韓国にあるのは青銅製の弥勒菩薩半跏思惟像で2体とも酷似。

